

■社会福祉学科 2022 年度開講科目 カリキュラムマップ

社会福祉学科 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

社会福祉学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

社会福祉の学びの究極は人間を理解することです。したがって、本学科が目指している人材に求められる資質は人間への深い関心と幅広い視野です。人間のニーズ(必要性)は多種多様であり、たとえ同じニーズであってもその状況に応じて、一つとして同じ対応はあり得ません。このような人間そのもの(人間理解)を対象とする「社会福祉」だからこそ幅広い視野が求められてきます。

以上のことから、社会福祉学科の教育目標は、現在の福祉環境を多面的に理解し、幅広い教養と深い専門領域を学修することによって、社会の発展に寄与できる人、それぞれのライフステージのなかで全ての人の「幸せ」(福祉)と「安心」を追究できる人、生活問題を主体的に解決できる人、このような人材を養成することです。従って、大学の理念である「行学一如」および本学科の教育目標を理解し、124 単位の単位取得と要件、求められる GPA(※1)を満たした上で、社会福祉学の知識と技能・技術を修得し、下記の資質能力について実践を通して理解を深めた人物に学位を授与します。

(ア)学生が身につけるべき資質・能力の目標

社会福祉学科では、社会福祉実践力を習得するために、以下の資質と能力を育てます。

1. 学びと行のための知識・理解

	ディプロマ・ポリシー原文	ディプロマ・ポリシーとの関係	カリキュラムマップ記載時の番号表記
(1)	さまざまな環境下にある人びとの生活や社会で起きている現象に関心を持つことができる	社会への関心と理解	③
(2)	さまざまな環境下にある人びとの生活状況、それらを取りまく社会構造、身体・心理的特徴、かかわり方などにどのようなものがあるかを理解できる	他者への関心と理解	②
(3)	さまざまな環境下にある人びとの福祉的課題について、アセスメントできる	アセスメント力	⑨
(4)	自らの関心や適性をふまえて、(2)(3)のなかでも特にどのようなアプローチで対象者の生活状況または社会をより良くすることができるかについて理解できる	問題解決力	⑩
(5)	(4)のアプローチについて、専門的知識を身につけた自信がある	専門的知識	①

2. 学びと行のための技能・技術

	原文	ディプロマ・ポリシーとの関係	カリキュラムマップ記載番号
(1)	特定の課題について必要な情報を収集・整理・分析・考察し、文章化する(レポートまたはプレゼンテーションにまとめる)ことができる	他者配慮表現力	⑤
(2)	(1)を ICT を用いて発表することができる	ICT 活用力	⑥
(3)	他者の発表や意見を関心をもって最後まで聞くことができる	自己尊重的コミュニケーション力	④
(4)	他者の発表などに対して質問や発言をすることができる	クリティカルシンキング力	⑧
(5)	他者の発言を促したり自制を促すなどして全体の議論を調整することができる	自己尊重的コミュニケーション力	④

3. 学びと行のための態度・志向性

	原文	ディプロマ・ポリシーとの関係	カリキュラムマップ記載番号
(1)	ふだんの生活やさまざまな活動を通して抱いた疑問を大事にし、学びや行のやる気(モチベーション)を高めることができる	自己コントロール力	⑦
(2)	疑問に答えるための行動を起こし(該当科目を履修する、図書館・各種メディアで情報を集める、先生・友人・家族・知り合いに聞く、当事者に聞きに行く、活動に参加する、など)、自分なりの答えを見つけることができる	問題解決力	⑩
(3)	自分の意見を他者にわかるように伝える工夫をしており、適切に表現ができる	他者配慮表現力	⑤
(4)	異なる立場にある人の意見や考え方も知り、対話の中で理解を深めることができる	自己尊重的コミュニケーション力	④
(5)	社会福祉の倫理観に基づいたコミュニケーションスキルを発揮することができる	自己尊重的コミュニケーション力	④

4. 行動

	原文	ディプロマ・ポリシーとの関係	カリキュラムマップ記載番号
(1)	3.(2)で見つけた現時点での自分なりの答えを実践すべく、目標を設定し、行動に移すことができる	問題解決力	⑩
(2)	その行動に必要な専門的知識・技能の向上に努めることができる	専門的知識	①
(3)	目標に向かって他者と協力することができる	自己尊重的コミュニケーション力	④
(4)	目標に向かって最後までやり抜くことができる／気概をもっている	自己コントロール力	⑦
(5)	目標に向かう過程で困難に直面しても、成長する機会として前向きに捉え、乗り越えるための工夫ができる	自己コントロール力	⑦
(6)	身につけた知識・理解、技能・技術、態度・志向性をもって社会問題を解決する／社会に貢献することが楽しみとなっている	社会貢献力	⑪

カリキュラムマップ記載時の番号表記	ディプロマ・ポリシーとの関係
①	専門的知識
②	他者への関心と理解
③	社会への関心と理解
④	自己尊重的コミュニケーション力
⑤	他者配慮表現力
⑥	ICT 活用力
⑦	自己コントロール力
⑧	クリティカルシンキング力
⑨	アセスメント力
⑩	問題解決力
⑪	社会貢献力

(イ)学位授与の条件

社会福祉学科の教育目標を理解し、124 単位の単位取得と要件、求められる GPA(※1)を満たした上で、社会福祉学の知識と技能・技術を修得し、上記の資質能力について実践を通して理解を深めた人物に学位を授与します。

*1 GPA: Grade Point Average の略。授業科目ごとの成績について、例えば5段階(秀・優・良・可・不可)で評価した上で、それぞれに対して4・3・2・1・0のようにグレード・ポイント(GP)を付与し、その平均を算出して評価を行う制度をさします。

●共通基礎科目

科目コード	科目名称	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係 (◎特に重要、○重要、△望ましい)														
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪				
AA1001 AA1031	禅のこころ	禅の思想的特徴を理解すると同時に、実際に坐禅を体験しその精神を会得する。	1) 禅の思想的特徴を理解する。 2) 坐禅の作法を身につける。 3) 調息、調身、調心について理解し実践する。 4) 坐禅を通して自己と他者を観察する。 5) 坐禅を通して自己を整える。自分を取戻す。	△	◎						◎							
AB1002	ボランティア論	ボランティアが地域社会に果たす役割、また地域社会から寄せられる期待は、年々大きくなっています。世間一般にいられているボランティアとは、どのようなものなのでしょうか。また、なぜ地域社会ではボランティアが必要とされるのでしょうか。ボランティアの基本的理念、またボランティア活動の具体的事例や活動の現場で今どのようなことが問題になっているのか理解を深めましょう。	1) ボランティア活動の定義について説明できる。 2) ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。 3) 地域社会におけるボランティア活動の実践者あるいは推進者として行動するための知識を理解し説明することができる。 4) ボランティア活動に関わる制度およびその活用法について説明できる。	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	○	◎	◎				
AB1020 AB1032	科学的な見方・考え方	現代社会においては、メディアを通して数多くの情報が瞬時に飛び交い、大した苦勞をすることもなく豊富な情報が手に入るようになりました。しかし、自分では十分に理解していると思っている情報であっても、いざ誰かに説明してみたら、意外とうやむやな理解であったために説明に戸惑ったり、矛盾を指摘されて誤解に気付いたりすることもあるようです。さらに、学習のために調査し多くの事例や資料をまとめていく作業においても、先に結論ありきなのか、論理の飛躍や矛盾に気付かないままに進めてしまうケースが見受けられます。 特に通信教育のように、「書いたもの」のやりとりがメインである場合には、「そういうことが言いたかった（書きたかった）」「そういう意味も含めて書いた（つもり）」と書いていても、実際に文字になって表現できていなければ、読み手には全く伝わりませんし、単なる飛躍したアイデアやひらめきと言われても仕方ありません。 そこで本科目では、論理的に説明するひとつの方法として、資料（図または表）を活用して自身の考えを論理的に組み立てる手法を学び、科学的根拠に基づいた説得力のある表現ができるようになることを目指します。	1) 自分の意見を明確に述べたり、わかりやすく説明したりすることができる。 2) 問われていることに的確に答えることができる。 3) 飛躍がないように論理を組み立てて、他者を納得させることができる。 4) データで示されている内容を、正確に読み取ることができる。 5) 先入観や一般論を混在させずに、事実に基づいた説得力のある表現ができる。 6) 科学的根拠により表現されているか否かの判断が明確にできる。		○	◎		○	○		◎		◎					
AB1033 AB1145 DA2145	基礎演習	通信教育での基盤となるレポート学習の仕方について学びます。 【スクーリングで学ぶ内容】 福祉にまつわるさまざまな問題からテーマを設定し、グループごとに話し合い、議論された内容について資料（レジュメ）を作成し、最後にグループ発表を行っていただきます。適切な情報収集のために必要な書籍とインターネットの活用方法や、聞き手（読み手）に伝えるための内容構成について学びます。一方的な講義形式ではなく、学生が主体的に参加する演習形式です。受講生の自由な視点からの、活発な議論を期待します。またグループ学習を通じ、普段の学習方法についての情報交換や学習仲間をつくる機会にもしてください。 【レポート学習で学ぶ内容】 スクーリングでグループごとに作成した資料（レジュメ）を骨子として、レポートを執筆します。レポートとしての正しい書式や構成、表記方法を学びます。	1) 一つのテーマや話題について討議し、他者の意見を傾聴しながら、新たな気づきを得、またそれらを自身の中で再構築し表現することができる。 2) レジュメの作成を通じてレポート学習の手順を理解し、正しい書式で要点を押さえたレポートを書くことができる。 3) 学友の輪を広げる。		△	○	◎	○	◎	△	◎		○					
AB1034	情報処理の基礎	情報化社会においては、コンピュータの活用として、インターネットでの検索ができるだけでなく、コンピュータでの文章作成と表計算が欠かすことができなくなっています。そこで、通信教育においても活用される学習システムの活用方法の修得から始まり、コンピュータを使用したレポート等の文章作成ソフト、データを分析するための表計算ソフトの活用方法の基礎を学びます。また、情報化社会においては、コピペやSNSの炎上などが問題視されていることから、情報機器を活用する際の情報モラルについても学びます。これらの学びを通して、通信教育課程において求められる情報リテラシー（コンピュータを使うための知識・技術）を修得します。 【スクーリングで学ぶ内容】文章作成、表計算の基本的な技術の修得を目指します。 【レポート学習で学ぶ内容】情報モラル、文章作成、表計算に関する知識や実践力の修得を目指します。	1) 通信教育課程にて求められる学習支援システム（TFU オンデマンド）が活用できるようになる。 2) コンピュータを用いてレポートなどの文章を作成できる。 3) コンピュータを用いて表計算やグラフの作成などができる。 4) コンピュータを使用する上でのマナーやモラルを論じることができる。	○	○	△	△	◎	◎	○	△	×	○	×				
AB1035	データ分析とプレゼンテーション技法	本科目では、「データの活用」に主眼をおき、実生活や職場で実践できる「データ分析の基礎」を学びます。そのため、統計学、および、数学的な内容については必要最低限の範囲に留め、その代わりに、「データ分析の設計方法」、「データのクレンジング」、「分析結果の解釈と提示時の留意点」等のより実践的かつ実務的なデータ分析に関する事柄について学びます。 なお、この科目ではデータ分析および分析結果の提示等にExcel やPowerPoint を使用しますので、Microsoft 社のOffice がインストールされているパーソナルコンピュータが必要になります。 【スクーリングで学ぶ内容】 スクーリングでは、データ分析に関する基本的なプロセスを学び、データ分析を演習形式で実際に行います。 【レポート学習で学ぶ内容】 レポート学習では、データ分析における基本的な語句の意味についてとそれらの計算、および、問題とデータが与えられた際のデータ分析のプロセスについて学びます。	1) 「データ分析」の目的を適切に説明できる 2) データ分析を実施する上で重要な「問題領域」「評価軸」「要因」について説明でき、それらを立案できる 3) データのグラフ化（可視化）を行いデータの概要（特徴等）の把握ができる 4) 「代表値」（平均値、中央値、最頻度）の意味と使う場面を説明できる 5) データ分析の結果を他者に正しく伝えるためのグラフ化ができる 6) PowerPoint を用いてデータ分析および分析結果をプレゼンテーションできる	◎	×	○	○	○	◎	△	○	○	◎	◎				
AB1146 DA3146	統計情報を見る眼	私たちは普段テレビや新聞、広告などを通してたくさんの統計情報に接しています。統計情報は物事を客観的に理解し、人に伝える上で非常に有効で便利なものです。さらに、統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことによって、そこから有益な結論を論理的に導き出すことが可能になると考えられます。しかし、その反面、このように統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことは必ずしも簡単なことではありません。 本科目では、1) 統計情報の種類やそれらの特徴について理解すること、2) それらを利用し解釈する際の留意点や統計的な思考法について学んでいくこと、3) 手元のデータを一般化する方法について学んでいくことの3点を目的とします。以上を通して、統計情報に騙されることなく、それを「読みこなし」「使いこなす」ことができるよう「統計情報を見る眼」をより豊かなものにすることを目指します。 なお、統計情報は事象を数値的に処理したものであり、統計情報についての理解を深める上である程度の数学的な知識が必要になります。その点で、特に数学に苦手意識を持つ方には、履修することがはばかれる科目かもしれません。しかし、本科目では、統計値の算出の仕方やその数式の理解ではなく、その統計値の意味やその統計値を解釈し利用する際の留意点について理解を深めることに重点を置きます。	1) 平均や度数といった統計情報の特徴、およびこれらを理解・使用する際の留意点について説明できる。 2) データのばらつきを理解することの重要性について説明できる。 3) 相関について、相関関係を様々な観点から解釈することができる。 4) 統計的検定の思考法について説明できる。 5) 示された統計情報やそこでなされている主張に対して、統計的な思考法に基づきながら批判的に検討できる。	○	×	△	×	△	×	×	◎	×	○	×				
AH1036	法の基礎	福祉の現場では発生する多様な価値観の衝突に対して、迅速かつ確かな判断能力が必要です。その的確な判断能力を身につけるためには、社会福祉専門職としての法学的知識がどのような場面で、どの程度の活用ができるかという素養が必要となります。本科目では社会福祉の対象となる市民に対しての単なる法学的知識を習得するにとどまらず、社会福祉サービスの対象の属性別（児童、高齢者、障害者など）にそれぞれの領域で専門職としてふさわしい法的思考能力を修得し、ひとりひとりの幸せづくりに貢献できる社会福祉の人材の養成を目的とします。	1) 日本国憲法の制度趣旨について説明することができる。 2) 成年後見制度について解説できる。 3) 民法の全体像について説明することができる。 4) 法の解釈について説明することができる。 5) 判例をあげて、基本的人権を説明することができる。	○	◎	◎	△	◎	△	◎	×	×	○	○				
AH1007	法の基礎(日本国憲法を含む)	「法の基礎」参照	「法の基礎」参照	○	◎	◎	△	◎	△	◎	×	×	○	○				

●専門必修科目・専門選択科目

科目コード	科目名称	主題	到達目標	ディプロマ・リソとの関係 (◎特に重要、○重要、△望ましい)												
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪		
CA3104	社会福祉原論(職業指導を含む)	社会福祉にかかわる全般的な基礎知識の学修と、社会福祉観の変遷についての理解を目的とします。「社会福祉」という言葉は広く使われるため、その実態の学問的把握は曖昧になりやすく、ともすると主観的な幸福論や通俗的な人生論に終始しやすいと思われます。しかし、多種多様な社会福祉事象および具体的な社会福祉実践の本質は、まぎれもなく他者の人生へのかかわりであり、理念的には人類史上の文化的創造の営為の一つとも解せます。したがって、「社会福祉原論」では社会福祉に関する専門用語・知識の確認に留まらず、常に「社会福祉とは何か」「社会福祉をいかに捉えていくのか」等を思考しながら学修することを望みます。大切なことは、自らの社会福祉観の涵かん養ようにあるといえます。	1) 社会福祉の全般的な基礎知識(社会福祉士・精神保健福祉士国家試験科目『現代社会と福祉』の合格水準)を解説できる。 2) 社会福祉の歴史の概要を説明することができる。 3) 社会福祉の思想に関して理解し、説明することができる。	◎	◎	◎	△	△	△	×	◎	△				
CA3105	地域福祉論	わが国の社会福祉は、大きな転換期にあります。特に、社会福祉基礎構造改革をはじめ、地方分権の推進や規制緩和による福祉サービス供給体制多元化などの状況の中で、地域福祉の推進のあり方が問われてきています。 21世紀の社会福祉は「地域福祉」にあるといわれており、これからの社会福祉の目標や方法は、新たな視点を十分意識し、地域社会を基盤に考えていかなければなりません。理論および社会的な背景や歴史的考察、また海外比較などを通してできるだけ多角的に地域福祉を理解するとともに、あわせて各地で展開されている地域福祉実践からも学びを深めていく必要があります。その上で、いま地域福祉の何が問題になっているのかを考察しながら、地域住民や最前線で活躍しているソーシャルワーカーをはじめとする実践者の取り組みなどを通じて具体的に学んでいきます。 この科目では『地域福祉の理論と実際』というテキストを使用します。テキストでは、地域福祉の基本的な考え方、理論、地域福祉の推進を図る実践方法についての理解などの内容となっております。地域社会とそこで生活する地域住民の理解には、幅広い知識も必要です。社会福祉士受験科目の他の指定科目とあわせて学習してください。資格取得を目指す人はもとより、そうでない人も社会福祉に関する基本的な知識に関する科目として貪欲に学んでいただきたいと思ひます。	1) 地域福祉の必要性をふまえ、理念および基本的な理論を説明することができる。 2) 地域福祉に関する課題を把握し、解決に向けた方向性を見出すことができる。 3) 地域福祉の展開手法や具体的な推進方法に関して説明することができる。	◎	○	◎	△	○	△	◎	△	○	◎	◎		
CA4107	社会保障論	私たちの国の社会保障制度は、進展している少子高齢化のなかで構造的な転換期を迎えており、「社会保障革命」といふべき各種の見直しが行われています。例えば、2000年には介護保険が創設され、近年においても年金制度や医療(保険)制度なども改革の道を歩んでいます。まさに新しい生活保障システムが求められている時代ともいえるでしょう。とはいえ、「構造的な転換期」だからこそ原点に立ち返り、「社会保障とは何か」の古典的な議論も必要であると思ひます。 そこで、本科目においては、社会保障の考え方や歴史等を踏まえて、「社会保障とは何か」をともに考え、その上で、各種社会保障制度の現状と課題について学んでいただきたいと思ひます。	1) 社会保障における理念を説明することができる。 2) 社会保障制度の仕組みと問題点を端的に説明することができる。 3) 日常生活のなかでの社会保障の役割を説明することができる。 4) 少子高齢社会におけるあるべき生活保障システムを自らの言葉で説明することができる。	◎	△	◎	×	×	×	△	○	△	○	△		
CA4108	公的扶助論	わが国は、「豊かな社会」といわれています。では、「貧困」は解消されたのでしょうか。確かに各種の社会保障制度が整備・充実されたことによって、公的扶助(生活保護)の受給者は、戦直後から比較すると一時期においては減少してきました。しかし、近年は景気の低迷、雇用環境の悪化などを背景にして、国民生活の不安は深化し、格差も拡大しています。その結果、生活保護の受給者も増加傾向をみせています。その意味では、「貧困」問題は国民生活の身近なところにあるといえるでしょう。このような現状を考えると、国民生活のラスト・セーフティ・ネットとして位置づけられている公的扶助は、依然として私たちの生活において重要な役割を果たしていると思ひます。 そこで本科目においては、このような問題意識のもと、国民生活を保障する最終的な救済手段である公的扶助(生活保護)に関して、現代社会の貧困の様相と生活保護の考え方、制度の内容、実質的な実施機関となる福祉事務所の現状と課題などを学んでいただきたいと思ひます。	1) 多様な貧困の様相から現代社会の問題点を説明することができる。 2) 生活保護制度の仕組みを説明することができる。 3) 生活保護制度が抱える問題を自らの言葉で表現することができる。 4) あるべき貧困対策を主体的に考えることができる。	◎	◎	◎	×	×	×	△	△	△	○	○		
CB3063	福祉法学	福祉法学の科目は、科目名称の示すように社会福祉の仕事を行うにあたって必要とされる法学的な知識を、概括的に学ぶことを目的として設置されたものです。社会福祉の仕事を行う場合には、まず社会の一般市民としての部分を基礎に、社会福祉の部分の積み上げられた内容であることが求められます。法とは何か、それを理解する歴史的な知識、現行法令としての基本法(憲法、民法、行政法)、社会福祉サービス事業を行うに際しての最低限の知的情報(情報公開、権利擁護制度)などが、この福祉法学の科目における講義内容です。2009年度からは成年後見制度及び更生保護制度の知識が新たに加わった講義内容になります。	1) 福祉法学の制度概要について述べるができる。 2) 基本的人権の制度趣旨(特に自由権・社会権)を、判例を踏まえて、説明することができる。 3) 成年後見制度の意義と活用方法について説明できる。 4) 憲法、民法、行政法の制度体系について説明することができる。	◎	◎	◎	○	○	×	×	○	△	◎	◎		
CC2101	福祉社会学	近代以降の社会の発展は、それまでよりも豊かで便利な生活を私たちにもたらしました。しかしその一方で、近代社会に特有の社会構造は様々な問題を生み出し、私たちの家族関係や生活環境を脅かしています。とりわけ、近年の福祉国家の衰退と新自由主義の台頭は、社会の結びつきを揺るがし、「福祉」のあり方を大きく変容させています。 そこで本講義では、社会学の知見を通して、私たちの生きる社会について考察します。社会学は、19世紀から20世紀に生きた人々がみずからの生きる社会を理解しようと努力する中で鍛え上げられてきた学問です。その成果を活用しながら、ひとりひとりが現代社会における「福祉」について考えるための視角を身につけてほしいと思ひます。	1) 社会学の概念や語句を正しく理解し、説明できる。 2) 近代以降の家族の変容を理解し、今日の家族に生じている問題との関連性を説明できる。 3) 現代社会に生じている問題を理解し、それに対するみずからの考えを他者に表現できる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	◎		
CC2103 CC2149 CC2068	福祉心理学	現代の日本社会は、まさに「ストレス社会」であるといえます。そのストレス社会を生き延びるのはそう簡単なことではありません。現に複雑・多様化する日本社会にあって、「心」の悩みを抱えている人が急速に増加してきていることがよい例でしょう。 福祉心理学は、社会的に弱い立場にいる人々の心の問題を受容し、理解しながらどのような関わりができるかを探る、「福祉」と「心理」の融合を目指した新しい学問です。実際的には、福祉の世界に「心理学」の知見を活用し、人々の「生活の質」(QOL)を向上させ、幸せの追求を援助するための方法について学んでいきます。	1) 一人一人の幸せ追及とQOL(生活の質)の向上に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。 2) 「心理学」の理論や手法を応用して、人々の福祉に対処するための方法を解説することができる。 3) 福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 4) 虐待についての基本的知識を身につける。	○	◎	◎	◎	◎		○	○	○	○	◎		
CC3079	医学一般	日本人の死因は、食生活や運動、嗜好など、日常生活上の不健康な生活習慣の積み重ねによる生活習慣病と深くかかわっています。また、加齢に伴う生理機能の低下は、疾病を生じやすくします。 社会福祉に従事する人にとって、医療の基礎的な知識を持つことは不可欠ですが、私たちがより健康的に生活する上でも、人体や老化、疾病などについて理解することは大切です。福祉関係職種に従事することを目指している人は、利用者の医療と一緒に考えることができるように心がけて学んでください。 本科目では、基本的な人体の構造と機能を理解した上で、直面する頻度の高い障害や疾病について医学的に理解します。学んだ知識を、日々の生活に生かせるような、応用がきく生きた勉強を心がけてください。 医学一般は、予防対策や行政の取り組みなど、医療にかかわる広範囲の内容を含みますが、単位が4単位から2単位に減少したため、障害、リハビリテーション、国際生活機能分類(ICF)など、他の科目と重複する分野については、レポート課題には入れませんでした。しかし、非常に重要な分野ですので、教科書をしっかりと読んでおいてください。予防対策や感染症、生活習慣病など、「公衆衛生学」と重複しますので、「公衆衛生学」のレポート課題を参照して、より深く学ぶことをお勧めします。	1) 人体の主な器官の生理的機能について説明できる。加齢に伴う生理機能の低下と、高齢者に多い疾患(慢性腎臓病、高血圧、誤嚥性肺炎など)との関連について説明できる。 2) 免疫(特に液性免疫)や自律神経による身体の機能調節について説明できる。 3) 大脳の機能と関連させて考え、認知症の中核症状と、主な原因疾患について説明できる。 4) 生活習慣病および、生活習慣との関連について説明できる。主な生活習慣病について説明できる。メタボリック症候群と関連させて説明できる。日本人の死因と関連させて説明できる。	◎		◎									◎	

CB3078	医学概論	<p>社会福祉関係職種に従事する人にとって、生活支援技術の根拠となる人の身体構造と心身機能について理解することは不可欠です。人体や老化、疾病などの医療の基礎的な知識を持つことは、利用者の医療と一緒に考え、安全な介護サービスを提供できるためだけでなく、私たちがより健康的に生活するために大切です。</p> <p>本科目では、基本的な人体の構造と機能を理解したうえで、ライフステージにおける心身の変化にともなう健康と疾病のとらえ方について理解します。また、直面する頻度の高い障害や疾病について医学的に理解し、人々の健康に及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を考えます。</p> <p>医学概論には、予防対策や行政の取り組みなど、医療にかかわる広範囲な内容を含みますが、時間が限られるため、障害、リハビリテーション、国際生活機能分類（ICF）など、他の科目と重複する分野については、レポート課題には入れませんでした。しかし、非常に重要な分野ですので、教科書をしっかりと読んで、医学概論で学んだことと結び付けて考えられるようにしておいてください。</p>	<p>1) 生活支援技術の根拠となる人体の主な器官とその生理的機能について説明できる。加齢に伴う生理的機能の低下と、高齢者に多い疾患（慢性腎臓病、高血圧、認知症など）との関連について説明できる。</p> <p>2) 日本人の主な死因と、生活習慣や生活習慣病との関連について説明できる。</p> <p>3) 介護保険及び、介護保険の特定疾病について説明できる。高齢者に多い神経疾患や精神疾患の特徴について説明できる。</p> <p>4) 大脳の機能と関連させて、認知症の中核症状と、その主な原因疾患について説明できる。</p> <p>5) 公衆衛生学の観点から、日々直面する感染症と感染症対策について考え、対処法を説明できる。</p>	◎	◎	◎	△	△	△	△	○	△	◎	△
CC4080	福祉行政と福祉計画	<p>福祉行政では、国・都道府県・市町村の役割や国と地方との関係に留意しながら社会福祉行政の実施体制を学びます。また、国と地方における財政のポイントを整理しながら、福祉財政の現状や動向を見ていきます。福祉計画では、福祉計画の意義や目的を理解しながら、具体的な福祉計画（地域福祉計画、老人福祉計画、介護保険事業計画、障害者計画、障害福祉計画および次世代育成支援行動計画）の内容や特徴について学びます。</p>	<p>1) 福祉行政の組織および国と地方自治体の関係について説明できる。</p> <p>2) 社会保障関係費や民生費の現状を説明できる。</p> <p>3) 福祉行政を担う専門機関や専門職について説明することができる。</p> <p>4) 具体的な福祉計画について根拠法と関連付けて解説できる。</p>	◎	△	◎	×	×	×	△	△	○	○	○
CD2118	障害者福祉論	<p>本科目では、障害者福祉の基礎知識や、その背景にある理念や概念を理解することにより、障害者への福祉的援助を行う際の基本的な考え方や基盤を築くことを学習のねらいとしています。障害者福祉とはどのようなものなのかということを理解するために、まず、障害者理解のための基本的知識や考え方を学習します。そして、障害者福祉施策の展開とその特徴について概観し、実際に福祉援助を行う上で必要な知識と方法について習得します。</p>	<p>1) 障害者福祉の理念と障害の概念について説明することができる。</p> <p>2) 障害当事者を取り巻く現状や、これまでの歴史を踏まえ、当事者が抱える問題への認識を深めつつそれらを説明できる。</p> <p>3) 障害者福祉制度、関連施策への理解を深め、当事者が抱える問題の軽減、解決に向けた取り組みについて説明できる。</p> <p>4) 何が「障害」かということに関して、身近な体験や様々な事例を通じ、自分の言葉で伝えることができる。</p>	○	○	◎		◎	○				○	
CD4075	保健医療サービス論	<p>「保健医療サービス論」は、社会福祉士受験科目「医学一般」を新たに再編したものです。したがって、本科目は、少子高齢化、疾病構造の変化等に伴う各種制度の改変とニーズの多様化に合わせ、改めて社会福祉士に必要な学習領域を示したものと理解できます。</p> <p>本講義では「保健医療サービス」の基礎知識とソーシャルワークの歴史やケースワークの技術、価値、多職種との連携等について学びます。主として、①保健医療サービスのシステム、②専門職の役割、③社会資源との連携、④保健医療分野のケースワーク理論等です。スクーリングでは、医療ソーシャルワーク、ケアマネジメントの実務事例にふれながら、わかりやすく解説します。</p>	<p>1) 保健医療サービスの構成要素や歴史、機関間連携とSWの役割を述べることができる。</p> <p>2) 医療法や診療報酬、介護保険法における施設の機能や類型を説明できる。</p> <p>3) 保健医療サービスにおけるMSWの歴史と業務内容を解説できる。</p> <p>4) 保健医療サービスの関連専門職の業務内容やMSWの基本的姿勢を説明できる。</p> <p>5) 保健医療サービスにける各種社会資源（健康保険や高額療養費等）を解説できる。</p>	◎	○	◎	○	○	×	△	△	○	◎	○
CE3070	社会福祉援助技術総論	<p>「ソーシャルワーク（相談援助）」とは何でしょうか。今日、日々変化し続けている社会生活の中で、人々が抱えているニーズも多種多様化しています。ニーズに応えるためのソーシャルワークとはいかにあるべきものなのでしょうか。それに携わる専門職とはどうあるべきものなのでしょうか。ここでは、それらを明らかにするために、①社会福祉士、精神保健福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。②相談援助の概念と範囲について理解する。③相談援助の理念について理解する。④相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。⑤相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。⑥総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。以上を主な学習のねらいといたします。</p>	<p>1) 社会福祉士、精神保健福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について説明することができる。</p> <p>2) 相談援助の概念と範囲について説明することができる。</p> <p>3) 相談援助の理念について説明することができる。</p> <p>4) 相談援助における権利擁護の意義と範囲について説明することができる。</p> <p>5) 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について説明することができる。</p> <p>6) 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について説明することができる。</p>	◎	◎	◎	△	△	×	△	○	○	○	○
CE3071	社会福祉援助技術論A	<p>ソーシャルワーク実践は現在、これまでにない厳しい局面に立たされています。時代社会の変化と連動して、支援の対象となる「人」「問題」「状況」のいずれもが、いっそう複雑化し、既存の社会福祉制度では容易に対応しきれない社会問題、生活問題の深刻化・多様化・拡大化が進んでいます。また、援助専門職による利用者・当事者に対する「不適切なかかわり」や事故、不祥事は後を絶ちません。</p> <p>さらに、援助専門職が「権利擁護」「命の尊厳」「排除しない福祉」あるいは「自立支援」等々の必要性を熱く語ろうとも、現実的に「必要とされる支援」が提供されていないと感じている利用者・当事者が、福祉サービスや援助専門職のあり方に対して疑問、憤りあるいは不信の眼差しをより強く注ぎ始めているように感じられます。</p> <p>まさに「当事者の時代」が標榜されている今日の状況の中で、ソーシャルワークの理論と実践が利用者・当事者の「生活」や「生」にどれだけ接近してきたのか、あるいは接近することができるのか問われているといえるでしょう。</p> <p>また、1987年の制定後20年の歳月を経て2007年に「社会福祉士及び介護福祉士法」が初めて改正され、「実践力の高い社会福祉士」及び「総合的かつ包括的な相談援助」ができる社会福祉士が求められています。</p> <p>このような時代社会状況であるからこそ、ソーシャルワークでしかできないこと、またソーシャルワークがやらなければならないことがあるはずで、本科目の学修を通して、相談援助を行う上で必要な知識・方法の修得に留まらず、自らの「ソーシャルワーカー・アイデンティティ」と「援助観」の構築に励んで頂きたいと思っています。</p> <p>本科目では、以下の内容について学びます。</p> <p>1. 「相談援助」とは何か？—概念・構造・機能—</p> <p>2. 「人と環境の交互作用」とは？</p> <p>3. 相談援助における対象の理解</p> <p>4. 相談援助における「援助関係」—概念・意義—</p> <p>5. 相談援助の展開過程</p> <p>6. 相談援助に必要な技術—意義・目的・方法・留意点—</p> <p>アウトリーチ、契約、アセスメント、介入、モニタリング・再アセスメント・効果測定・評価、面接、記録、交渉</p>	<p>1) ソーシャルワークの定義、枠組み、および構成要素（特に価値、知識、技術の関係性）について説明することができる。</p> <p>2) ソーシャルワークの構造と機能について説明することができる。</p> <p>3) 相談援助における援助関係の定義について説明し、援助関係の質と自己覚知との関係性について解説することができる。</p> <p>4) 相談援助の展開過程の流れ、およびそれぞれの展開過程の内容について説明することができる。</p> <p>5) アウトリーチ、契約、アセスメント、介入、モニタリング・再アセスメント・効果測定・評価、面接、記録、交渉の各技術の意義と目的について説明することができる。</p>	○	◎	◎					○	◎	○	○
CE3072	社会福祉援助技術論B	<p>「社会福祉援助技術論A」の項をご参照ください。</p> <p>本科目では、「社会福祉援助技術論A」の学修内容を踏まえた上で、以下の内容について学びます。</p> <p>1. 様々な実践モデルとアプローチ</p> <p>2. ケースマネジメントとケアマネジメント</p> <p>3. グループを活用した相談援助</p> <p>4. コーディネーションとネットワーク</p> <p>5. 社会資源の活用・調整・開発</p> <p>6. スーパービジョンとコンサルテーションの技術</p> <p>7. ケースカンファレンスの技術</p> <p>8. 事例研究・事例分析—意義・目的・方法・留意点—</p> <p>9. その他</p>	<p>1) 相談援助において対象をどのようにとらえるかについて述べることができ、さらに対象理解に際して援助専門職に必要な姿勢、専門性について解説することができる。</p> <p>2) ソーシャルワーク実践理論の分化・多様化の動向を踏まえたうえで、実践モデルと実践アプローチの意味と内容について解説することができる。</p> <p>3) 治療モデル、生活モデル、ストレスモデルの特徴について述べることができ、さらにジェネラリスト・ソーシャルワークにおける三つの実践モデルの活用の仕方について解説することができる。</p> <p>4) 従来の実践アプローチ（心理社会的、機能的、問題解決、課題中心、危機介入、行動変容）の発展史を踏まえたうえで、新興アプローチ（エンパワメント、フェミニスト、ナラティブ、EBSW）の内容、及び注目されるに至った社会的背景と意義について説明することができる。</p> <p>5) ケースマネジメント、グループ活用、コーディネーションとネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、スーパービジョンとコンサルテーション、ケースカンファレンス、事例研究・事例分析の各技術の意義と目的について説明することができる。</p>	○	◎	◎					○	◎	○	○

CE4073	社会調査の基礎	<p>社会福祉実践における社会調査の役割は、近年ますます重要になっています。間接援助技術として強調されていた時代には、主にメゾ、マクロ領域を中心に用いられていました。しかし、近年ではリサーチに基づくソーシャルワークあるいはエビデンスに基づくソーシャルワークといった概念にみられるように、ミクロ領域を含む全ての社会福祉実践の領域に社会調査の知識と技術が必要とされています。</p> <p>本科目では、主に以下の内容について学びます。</p> <p>①社会福祉における社会調査の役割 ②社会調査の概要 ③社会調査の方法（量的および質的分析） ④統計法、社会調査における倫理と個人情報保護</p>	<p>1) 社会福祉調査の意義を近代史に位置付けて述べる ことができ、今日におけるその目的を説明できる。 2) 統計的方法の基礎を理解し、調査の枠組みが組 めるようになる。 3) 調査票を作成したり結果の分析の方法に関する 留意点が説明できる。 4) 少数事例実験計画や質的調査法について、社会 福祉実践の評価と関連付けて説明できる。 5) 各種統計を統計法も参照しながら活用する ことができる。</p>	◎	◎	◎	△	△	○	△	○	○	◎	○
CE4074	福祉経営論	<p>これまで社会福祉事業を中心とした福祉分野は、利用者を中心とした福祉サー ビスへとその提供のあり方が大きく変わってきました。その背景には、地域生活 支援・自立生活支援ニーズが高まり、従来の福祉援助の仕組みでは対応が困難に なってきたことがあげられます。その結果、福祉サービスの特質に配慮しながら も、増大する福祉サービスのニーズに応えるために、これまでの社会福祉法人を 中心とした制度から、特定非営利活動法人（NPO）、民間企業、医療法人などさま ざまな法人が事業所を運営して福祉サービスを提供できるように規制が緩和され てきました。</p> <p>このように、多様な法人によって福祉サービス提供組織が運営されています が、基本的な福祉サービスは、補助金や社会的保険によって費用のほとんどがま かなわれ、サービス内容が決まっています。そこで、利用者と事業者の間の契 約を基本としつつも、一般の市場と区別して、福祉サービスは準市場と呼ばれる ことがあります。したがって、民間企業であっても、福祉サービスの特質を理解 して事業を運営する必要があります。また、社会福祉法人では、これまで以上に 利用者のニーズに即した事業経営が求められます。</p> <p>この科目では、福祉サービス提供組織の多様性を理解し、共通して必要となる 福祉サービス提供組織の経営について学んでいきます。福祉サービス提供組織の 存在理由は、利用者へのサービス提供にあります。利用者を中心とした福祉サー ビスは、利用者のニーズを理解し、本人や家族、地域の住民と協力して提供して いくことが多いので、画一的ではない柔軟なサービス提供が求められます。経営 者や管理者は、小規模な事業所以外では、直接利用者にサービスを提供するこ とは多くありませんが、生活支援や介護、相談援助を行う職員を通して利用者 に貢献しています。ですから、経営者や管理者は職員が働きやすい環境を作り、人材 を育成し、必要な資源や組織環境を整えることが重要な仕事になります。そのた めには、利用者中心の理念を明確にし、組織的な事業経営に取り組む必要があり ます。</p>	<p>1) 福祉サービス経営者としての法人の役割を説明 できる。 2) 職員をサポートしリードしていく管理者の役割 を理解し、説明できる。 3) 福祉サービスの質を保証し、利用者の選択と意 見を取り入れていく仕組みや第三者評価を説明でき る。 4) 職員の待遇、人材の確保、人材の育成を理解 し、説明できる。 5) 会計財務管理の基本を理解し、説明できる。 6) 経営学の基礎知識を理解し説明できる。</p>	◎								◎	○	
CL2064	高齢者福祉論	<p>高齢者福祉の理念および目的について学習し、あわせて現行の高齢者福祉施策 の体系の全般的理解とその課題について考察します。具体的な内容は、次の通り です。</p> <p>(1)高齢者問題の背景（高齢者人口の動向・家庭環境の変化）を中心としながら、 高齢者福祉の成 立要因を多角的に考えてみる。 (2)高齢者福祉施策の変遷を学習する。 (3)老人保健福祉計画・介護保険事業計画の概要を学習する。 (4)在宅高齢者福祉施策（サービス）の体系と概要を理解する。 (5)高齢者施設福祉施策（サービス）の体系と概要を理解する。</p>	<p>わが国の高齢者福祉の現状と課題を理解し説明す ることができる。</p>	○	○	◎	○	○	×	○	○	○	◎	○
CL2065	介護概論	<p>わが国における高齢者の全体像を理解し、社会保障制度である介護保険制度の 創設の背景と目的を理解し、介護保険制度の見直しの背景、目的及び基本的視点 について理解する。さらに、社会福祉の基本理念を踏まえた上で、人としての尊 厳を重視した生活支援のあり方について専門的観点を習得すると共に、専門職し ての介護理念を構築することを目的としています。</p>	<p>1) 介護を取り巻く社会的背景について説明でき る。 2) 「介護」をどのように定義づけるのか、介護の 概念について説明できる。 3) 介護の範囲の考え方や専門性に求められる資質 について説明できる。 4) 介護過程の仕組みについて説明できる。 5) 認知症の原因と症状を踏まえ、認知症高齢者の 対応方法について説明できる。 6) 高齢者の終末期の特徴とケアのあり方について 説明できる。</p>	◎	◎	◎	○	○	△	△	○	◎	◎	◎
CL2066	児童・家庭福祉論	<p>子どもは、社会の一員として人権が保障されていると同時に、すべての子ども が児童家庭福祉の対象です。本科目は、子ども家庭を取り巻く社会現象や生活環 境の背景について理解するとともに、児童家庭福祉に関する法とサービス、子ど も・家庭に対する援助活動について学習します。児童家庭福祉は子どものみを対 象とするのではなく、子どもを取り巻く家庭・家族のテキストでも取り上げてい るようにウェルビーイングという視点から考えることが大切です。したがって、 児童家庭福祉は子育てをする家族や地域社会のあり方が重要な要素といえます。 子どもがのびのびと成長でき、家族が安心して子育てできる地域社会は、地域住民 にとっても暮らしやすい社会といえることができます。</p> <p>こうした背景から、本科目では児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情 勢、福祉需要、一人親家庭、児童虐待およびDV、地域における子育て支援および 子どもの青少年育成の実態について理解します。</p>	<p>1) 児童福祉や権利保障の歴史をふまえ、我が国の 児童家庭福祉の全体像を理解しその内容を説明する ことができる。 2) 多岐にわたる児童に関する法律や制度を把握 し、保育や社会福祉援助技術につながる知識を身に つけることができるようになる。</p>	◎	◎	◎	○	○	△	△	◎	○	○	○
CM3069	更生保護制度論	<p>更生保護とは、犯罪や非行に陥った者の改善更生を図るため、社会内で必要な 指導監督、補導援助の措置を行い、また、一般社会における犯罪予防活動を助長 することによって、犯罪や非行から社会を保護し、個人及び公共の福祉を増進す ることを目的としています。つまり、「再犯の防止」「改善更生」という2つの 特別予防目的を掲げて、これを車の両輪のように活用することによって「社会の 保護」という一般予防目的を達成し、それによって「個人及び公共の福祉を増進する」 ことを目的としています。</p> <p>本科目では、特に近年急増している高齢犯罪者と少年非行の事例を挙げて、刑 事司法・少年司法分野で活躍する組織、団体及び専門職、刑事司法・少年司法分 野の他機関等との連携の在り方について、具体的に学んでいきます。なお、社会 福祉士、精神保健福祉士の国家試験の必須の科目のため、受験する方は受講をお すすめします。</p>	<p>1) 更生保護制度の制度概要について説明するこ とができる。 2) 保護観察の制度趣旨と問題点について説明する ことができる。 3) 更生保護制度と社会福祉の関係性について、事 例を挙げて解説できる。 4) 医療観察制度の制度趣旨と問題点について説明す ることができる。</p>	◎	◎	◎	○	○	△	○	○	△	◎	◎
CM4076	就労支援サービス論	<p>就労支援サービス論は、2007（平成19）年の「社会福祉士及び介護福祉士法」 の改正で新たな科目として加えられました。これまで障害者や生活保護受給者へ の就労支援という課題を、トータルな社会福祉援助論としての就労支援という視 点からまとめたものです。</p> <p>したがって、労働基準法を中心とした労働者の権利を保障する制度を出発点 に、社会福祉の枠組みからの支援の現状を知り、どのような支援がどのような方 法で行われるべきかを考えていくことが学習のねらいです。</p> <p>また、就労を考えることは、これから就職していくみなさん、あるいは現在就 労しながら学んでいるみなさんにとっても大きな課題です。自らのこととして問 題を捉えていく姿勢も合わせて学んでください。</p>	<p>1) 労働の意味および社会福祉と労働の関係が説明 できる。 2) 就労支援の社会福祉における位置づけが説明で きる。 3) 現代の労働を取り巻く状況が説明できる。 4) 労働者の権利を保障するための法制度が説明で きる。 5) 障害者や低所得者への就労支援の方法と実際が 説明できる。</p>	◎	○	○	○	○	△	○	○	◎	◎	△
CN3082	社会福祉援助技術演習A	<p>この科目では、社会福祉士に求められる相談援助に係る基本的知識と技術につ いて、実践的に習得することを目的としています。単なる理論的な学習だけで は、今日の支援を必要としている人たちが抱える課題の解決やニーズの充足を満 たすことは困難といえるでしょう。理論を実践に役立てるためには、専門的援助 技術の学習とその体得が不可欠となります。</p> <p>本演習では、社会福祉援助技術における理論や知識を踏まえた上で、特に、倫 理・価値観、面接技法などの基本的なソーシャルワーク実践の方法・技術のいく つかを取り上げ、役割演技、グループ討議などを通し、統合的、主体的に学習す ることを目的としています。</p>	<p>1) 視点、モデル、アプローチなど社会福祉援助技 術の枠組みが説明できる。 2) 社会福祉専門職としての「自己」について、客 観的な視点から説明できる。 3) 社会福祉の価値、倫理について説明できる。 4) 言語的コミュニケーション、非言語的コミュニ ケーションの基礎を身につけ、基本的な面接技術を 学習の場で実践できる。 5) 相談援助の過程を事例を通し具体的にイメージ することができ、説明できる。 6) 相談援助の基盤と専門性について説明できる。</p>	◎	◎	◎	◎	◎		○	○	○	○	○

CS3155 CS3133	精神保健福祉の理論 精神保健福祉論 I	精神保健福祉とは一般に、疾病を抱えた人たちのものと考えられた時から、現在では国民全体の心の健康維持・向上、そして精神障害者の社会的自立と社会参加の促進・支援を目指す諸活動をさすものと考えられています。ここでは我が国の精神保健医療福祉の沿革を辿りながら、精神保健福祉士の活動の歴史と、精神保健福祉士の成立までの経過を学びます。テキストには事例も紹介されており、精神保健福祉士の相談援助の各過程の概要も学習してください。	我が国の精神障害者への処遇の変遷、精神保健の法律の成立の背景が説明できる。	◎	○	◎	△	△	○	△	○	○	○	△
CS4139	精神科リハビリテーション学	精神科リハビリテーションの概念と構成およびそのプロセスについて学ぶことで、精神障害者の地域移行・地域定着支援、すなわち精神障害のある人々がふつうの市民として、地域社会の中であたりまえに暮らしていくことができるようになるために必要な活動としての精神科リハビリテーションの実際、ならびに精神科リハビリテーションチームの一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。	1) リハビリテーション概念を理解し、精神科リハビリテーションについて述べるができる。 2) 脱施設化をキーワードに精神科リハビリテーションの歴史について、諸外国とわが国の差異性を説明できる。 3) ICF（国際生活機能分類）に基づく障害概念を説明できる。 4) チームアプローチの必要性・方法について理解し、そのなかでの精神保健福祉士の役割を説明できる	○	○	◎	○	○	△	△	◎	◎	○	△
CT3150	精神保健福祉のサービス	基本的には「精神保健福祉論 I・精神保健福祉の理論」における概念・歴史・現状の理解を前提として、「精神保健福祉論 II・精神保健福祉のサービス」の学習をすすめます。ここでは精神障害者の医療・保健・福祉にまたがる援助の中で福祉サービスを中心とした援助活動全体を概観します。	精神保健の法律の成立背景や精神障害者の生活の実際を説明できる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○
CT4152	精神保健福祉の制度	「精神保健福祉法と社会保障制度」「更生保護制度と医療観察制度」を中心に学びます。特に、制度として精神障害者の支援に関連する制度、更生保護制度における関係機関や団体との連携、医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割について、現状を踏まえて理解することを目標とします。	1) 精神保健福祉の制度概要について説明することができる。 2) 精神保健福祉の視点から、医療観察制度の制度趣旨と問題点について説明することができる。 3) 精神保健福祉法の各入院制度の活用法を説明できる。 4) 障害者の人権について理解して説明することができる。	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	×	◎	◎
CU3151	精神障害者の生活支援システム	ここでは精神障害者の支援に関する制度と福祉サービスの知識と内容が述べられています。相談援助活動が精神保健福祉法とどのように関連しているか、その組織や機関などの専門職を理解します。また、地域で生活するための場の確保や、近年大きく変化している障害者の就労・雇用支援の体制とその現状について学びます。	1) 国際生活機能分類について、改正の背景と意義を説明できる。 2) 精神障害者の生活支援の意義と特徴を説明できる。 3) 精神障害者の就労支援に関する制度と施策を説明できる。	◎	○	◎	△	△	△	△	◎	○	△	
CW3157	精神保健福祉援助演習 A	関連科目との関連性を踏まえ、精神保健福祉援助の基礎的知識と技術の習得を図ることを目的とします。 精神保健福祉援助に係る知識と技術、地域福祉の基盤整備と開発について、事例を通して実践的に習得します。	1) 自分の特性を把握できる。 2) 支援者としての自分への気づきを得ることができる。 3) 関わりの基本的姿勢が説明できる。 4) 面接における基本的な原則を意識しながら、面接を進めることができる。 5) 伝達技術における様々な方法について理解して説明できる。 6) 情報の収集におけるアセスメントができる。 7) ジェノグラム、エコマップが書ける。 8) 客観的な記録が書ける。 9) グループワークを通して、グループダイナミクスを理解し、活用できる。 10) 地域住民に対するアウトリーチとニーズの把握方法を説明できる。 11) 地域アセスメント並びに地域福祉計画の策定について説明できる。 12) ネットワーキングの方法や必要性について説明できる。 13) 必要な社会資源の活用・調整・開発について説明できる。 14) サービスの評価について説明できる。	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○
CW4158	精神保健福祉援助演習 B	精神保健福祉士は医療と福祉をつなぐソーシャルワーカーといわれています。したがって、「つなぐ」ことが大切な業務となります。精神障害を抱えた方から見れば障害を抱えることにより生じる生活上の困難は、精神科医療機関等の受診で解決するわけではありません。医療と福祉の問題は繋がっており、連続的な対応が必要となります。本演習のテーマは精神障害を抱えた方を生活者としてとらえ、支援・援助するために「つなぐ」ことを中心に学びます。 授業では、記録のあり方、援助過程に沿った事例展開の共通内容を概説し、相談援助過程の実技指導、情報の収集・整理・伝達、課題別事例（社会的排除）についてグループワーク、ロールプレイングを用い解説します。	1) 自己評価と第三者の評価を理解できる。 2) 事例を用いたグループワークの実践をとおして、相談援助の過程を理解して説明できる。 3) 退院支援における過程が理解でき、地域資源との連携方法、必要性を説明できる。 4) 地域支援において必要なことを理解して説明できる。 5) 家族システムを説明できる。 6) デイケアの役割、PSW の役割、グループダイナミクスについて理解して説明できる。 7) 精神障害者の就労支援の理解、雇用の実態について理解できる。	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○
CW5159	精神保健福祉援助演習 C	精神保健福祉援助実習では、配属された機関において、どのようなサービスを提供し、近隣にどのような関係機関があり、連携を図っているのかを理解しなければなりません。 具体的事例（生活のしづらさ、就労問題、低所得者、チームアプローチ等）を通して精神保健福祉援助技術の専門性の理解を図ります。	1) 実習体験を通し感じたこと、学んだことを言語化できる。 2) 支援者として何が求められているかが説明できる。 3) 本人のニーズ、家族のニーズ等の把握とアセスメント、支援計画が立てられる。 4) 様々な機関とのネットワーキングの必要性が説明できる。 5) 病気の理解、職場との関係構築、様々な制度について説明できる。 6) ピアサポートの有効性・現状が理解でき、PSW としての関わり方が説明できる。 7) 貧困・低所得者実態が把握でき、活用できる各種制度が説明できる。 8) 相談援助に求められている知識と技術についての自己評価ができる。 9) 実習体験を客観的に評価できる。 10) チームアプローチの理解、病院ワーカーの役割等について事例を通して理解して説明できる。	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○
CX4188	精神保健福祉援助実習指導 A	精神保健福祉士として必要な具体的かつ実践的な専門技術等の習得を図ることを目的とします。また、併せて精神保健福祉援助実習の意義について理解するとともに、地域精神保健福祉活動における実習分野（利用者理解を含む）と精神科医療機関に関する基本的な知識を理解することを目的とします。 福祉施設実習に向け、これまでの学びを体系的に整理し、自分の課題を明確にできるよう、事前学習にしっかりと取り組んでからスクーリングに臨んでください。	①精保実習 A 受講前 1) 実習の意義が説明できる。 2) 個人の実習課題を明確にして説明できる。 3) 実習計画（案）が立てられる。 4) 精神保健福祉士の倫理綱領が理解でき、実践していくことができる。 5) 考察の仕方を理解し、客観的な記録が書ける。 ②精保実習 A 受講後 1) 地域において精神障害者の置かれている現状の理解、精神保健医療福祉の現状の理解を実習の振り返りの中で確認し説明することができる。 2) 地域における各種の機関の役割が説明できる。 3) 様々な制度と実際の運用についての説明できる。 4) 自己覚知ができる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○

DD3242	知的障害がある人とのソーシャルワーク	<p>【はじめに、このシラバスでは今日においては差別（不快）用語が使用されるが、それは当時の社会、人々のもつ知的障害への意味を明確にしようとするために、必要であると考えるからである】</p> <p>知的障害の概念は、その時その時の社会の状況によって変化している。地元の身近な道化から、被扶助者、白痴者、収容者などである。ようやく1960年代に始まる人権擁護の思想の広がりは、国際障害者年、そして障害者の権利条約へと続き、権利行使の主体としての存在を認められたといつてよいだろう。</p> <p>この授業では、社会が知的障害の概念を作り変化させ、また知的障害の問題が、社会問題として顕在化してくる過程を踏まえて、ソーシャルワークが、知的障害があるとされる人たちとどのようにかかわってきたか、これなかったのか、また、これからどうあるべきかについて考える。知的障害の概念の変化や社会問題として顕在化してくる過程とソーシャルワークのかかわりについて学んで欲しい。</p>	<p>1) 「知的障害者」といわれる人たちが、社会の中で、これまでおかれてきた、そして現在おかれている状況を説明できる。</p> <p>2) 同時に、彼ら、彼女らへの「かかわり」の、これまでと現在を説明できる。</p> <p>3) これからの、彼ら、彼女らとのソーシャルワーク支援のあり方について、これまでの到達目標を踏まえ、自分の意見を述べるができる。</p>	○	◎	◎	○	○	×	△	△	△	◎	○	
DD4196	ケアマネジメント論	<p>ケアマネジメントは、1950年代アメリカで生まれたと言われていました。この時期、アメリカでは精神障害者が地域で暮らすようになってきましたが、適切な援助がないためにホームレスになるなど、必ずしも病院や施設より生活の質が向上したとは言えないことが明らかになってきました。その反省のもと、ケアや支援の継続性を確保するために、サービスを調整する役割が重要視されるようになりました。</p> <p>60年代に入って、要介護高齢者の在宅支援の仕組みとして、ケアマネジメントが応用されるようになりました。その後、イギリスや多くの国でケアマネジメントが検討され、イギリスでは、全国的にケアマネジメントが導入されることになりました。日本でも、2000年から始まった介護保険の中でケアマネジメントが位置づけられました。また、障害の分野でもケアマネジメントは実質的に実施されています。さらに、児童虐待などの分野でも応用されています。このように、日本だけではなく世界的にさまざまな分野でケアマネジメントは注目されてきました。</p> <p>ケアマネジメントは、歴史上アメリカから始まりました。しかし、ケアマネジメントという言葉は使われていませんが、日本の中では、60年代から保健・医療・福祉の連携の問題として、独自に発展してきました。また日本では、介護保険の中にケアマネジメントが位置づけられましたが、イギリスには介護保険はありません。このように、ケアマネジメントはさまざまな制度の違いにもかかわらず、いろいろな国で受け入れられてきました。</p> <p>この科目では、ケアマネジメントのこのような広がりをふまえて、ケアマネジメントとはなにか、なぜ必要とされているのか、どのように形作られ、運営されているのかを検討したいと思います。必ずしも、介護保険のケアマネジメントを解説することを目的とはしていませんが、講義の内容は高齢者のケアマネジメントが中心となります。しかし、障害の分野などのケアマネジメントと理論的には共通ですので、それらを理解するためにも役立ちます。</p>	<p>1) ケアマネジメントが必要とされた背景を説明できる。</p> <p>2) 個別支援としてのケアマネジメントを説明できる。</p> <p>3) ケアマネジメントのシステムを説明できる。</p> <p>4) ストレングスマデルを説明できる。</p> <p>5) ケアマネジメントの機能を理解し、実践できるようにする。</p> <p>6) 事例に基づいてアセスメントとケアプランを作成できる。</p>	◎			◎					◎	◎	◎	
DE2113	NPO 論	<p>地域福祉の諸活動、とりわけボランティア活動が重要な役割を果たすことが実際に証明された阪神淡路大震災（1995年）を契機として、一般市民による非営利活動が活発化し急速な発展とともに重要性が認識されたのです。</p> <p>そのような動きの中、市民による自発的な活動を支える仕組みとして非営利活動促進法（NPO法）が成立（1995年）し、民間非営利組織であるNPO（Non-Profit Organization）と呼ばれる事業体が、福祉・医療分野、子ども教育、環境問題、地域づくり、国際交流・協力など様々な分野で活動の枠を広げています。</p> <p>最近では、東日本大震災（2011年）においても、多くのボランティアやNPO が災害復興支援にとって欠かせないものとなりました。</p> <p>本科目では、主としてNPOの制度や活動、マネジメントについて総合的に学習してみましよう。内容としては、①我が国のNPO の役割や位置づけ、組織としての制度や活動のあり方やミッションとガバナンスの関係について学習してみましよう（テキストの第1～3章）。そして、②マネジメントについて、より深く人的資源管理や経営戦略、パートナーシップおよび資金調達と評価について検討してみましよう（テキスト4章以下）。</p>	<p>1) NPOに関する基礎的知識を理解し、説明できるようになる。</p> <p>2) NPOの様々な分野での活動を理解し、実態が把握できるようになる。</p> <p>3) NPOへの興味と理解を深めつつ内容を説明できるようになる。</p> <p>4) NPO についてグループワークやディスカッションができるようになる。</p>	○	○	◎	○	△	△	△	△	○	○	◎	
DE3143	福祉リスクマネジメント	<p>措置制度から契約制度の移行により、利用者と施設側が対等な関係となり、利用者側の権利意識が高揚したため、これまで顕在化しにくかった福祉サービスにおける事故が多発し、福祉サービス提供者側に多様なリスクが表面化し始めました。福祉サービスにおけるリスクには、介護におけるリスク、障害者におけるリスク、保育におけるリスク、施設におけるリスク、在宅におけるリスクなどさまざまなリスクが存在します。このような現状の下で、福祉サービスにおける事故等に対して、適切な対応の確立と具体的な介護事故における問題解決への方策が急務といえます。本科目においては、施設におけるリスクの分析、つまり社会福祉施設における介護事故の裁判例の分析を通じて、事故を未然に防ぐという予防的側面と、事故が生じた場合の事後的な対応を個別具体的に検討し、介護施設側に介護事故に対する自覚を促し介護事故防止のための体制を構築することを目的とします。</p>	<p>1) 介護事故の現状について説明ができる。</p> <p>2) 介護事故の裁判例の事案と判旨について解説ができる。</p> <p>3) 介護事故の裁判例の事故後の対応について説明ができる。</p> <p>4) 今後の介護事故の予防策について説明ができる。</p>	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	○	○	◎	◎	
DE4125	福祉施設管理論	<p>社会福祉法人は社会福祉の中心的な担い手として、これまで以上の役割を期待されています。日本の社会にも、近年さまざまな格差が生まれるようになり、低所得者の社会問題など、これまでの社会福祉法人の取り組みがますます必要になる状況にあります。</p> <p>しかし一方で、これまで社会福祉事業を中心とした福祉分野は、利用者を中心とした福祉サービスへとその提供のあり方が大きく変わってきました。その背景には、地域生活支援・自立生活支援ニーズが高まり、従来の福祉援助の仕組みでは対応が困難になってきたことがあげられます。その結果、福祉サービスの特質に配慮しながらも、増大する福祉サービスのニーズに応えるために、特定非営利活動法人（NPO）、民間企業、医療法人などさまざまな法人が事業所を運営して福祉サービスを提供できるように規制が緩和されてきました。</p> <p>この科目では、社会福祉法人の福祉サービス経営について学んでいきますが、福祉サービス提供組織の多様性も念頭に入れ、共通する内容に重点を置きます。福祉サービス提供組織の存在理由は、利用者へのサービス提供にあります。利用者を中心とした福祉サービスは、利用者のニーズを理解し、本人や家族、地域の住民と協力して提供していくことが多いので、画一的ではない柔軟なサービス提供が求められます。経営者や管理者は、小規模な事業所以外では、直接利用者にサービスを提供することは多くありませんが、生活支援や介護、相談援助を行う職員を通して利用者貢献しています。ですから、経営者や管理者は職員が働きやすい環境を作り、人材を育成し、必要な資源や組織環境を整えることが重要な仕事になります。そのためには、利用者中心の理念を明確にし、組織的な事業経営に取り組む必要があります。</p>	<p>1) 福祉サービス経営者としての法人の役割を説明できる。</p> <p>2) 職員をサポートしリードしていく管理者の役割を理解し、説明できる。</p> <p>3) 福祉サービスの質を保証し、利用者の選択と意見を取り入れていく仕組みや第三者評価を説明できる。</p> <p>4) 職員の待遇、人材の確保、人材の育成を理解し、説明できる。</p> <p>5) 会計財務管理の基本を理解し、説明できる。</p> <p>6) 経営学の基礎知識を理解し説明できる。</p>	◎								◎		○	
DF3110	公衆衛生学	<p>公衆衛生学は健康の問題を疫学的に把握することにより、病気の予防や健康を維持しようとする学問であり、社会医学の分野に属しています。また、衛生学は社会的環境要因と健康との関わりを分析することによって病気の予防と健康維持を探究する学問です。</p> <p>本科目は公衆衛生学と衛生学とを合わせた衛生公衆衛生学と呼ばれる領域を担当するものであり、予防医学と健康の維持についての科学と技術を学びます。わが国の公衆衛生の現状と衛生行政についても習得します。</p> <p>身近な学問です。自分の生活と関連付けて考えてください。</p>	<p>1) 公衆衛生の概要について簡潔にまとめることができる。</p> <p>2) 感染症と予防（免疫を含む）について説明できる。</p> <p>3) 主な生活習慣病と、その予防や生活習慣との関連について説明できる。メタボリック症候群と関連させて説明できる。</p> <p>4) 新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、公衆衛生に関する情報を得ることができる。</p>	◎	○	◎		△				○		○	○

CE3090	権利擁護を支える法制度	<p>本講義は権利擁護の本質を学修し、よりよい支援につなげていくために、法学の本質的理解の獲得を目的とします。認知症、知的障害、精神障害等により判断能力が低下した者の権利が侵害された場合に、権利擁護を支える担い手として社会福祉士、精神保健福祉士への期待が高まっています。</p> <p>憲法では日本国憲法の中核である「個人の尊重」を踏まえて権利擁護の視点から基本的人権を概説します。民法では紛争解決のために必要となる法原理を概説します。行政法では権利擁護に必要な法原理を概説します。成年後見制度では判断能力が不十分な人々の生活全般の支援方法を、事例を挙げて概説します。権利擁護の意義と支える仕組み、権利擁護活動と意思決定支援については権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法学の視点から何が重要なかについて説明します。</p>	<p>1) 権利擁護の概念と関連する法律・制度の概要を理解する。そのうえで、権利擁護の重要な概念である意思決定支援、本人の最善の利益について実践と結び付けて説明、考察することができるようになる。</p> <p>2) 成年後見制度の関連法、法定後見・任意後見制度の内容、手続き方法、制度上の問題・課題、実践上の課題を理解し、事例を挙げて説明、考察できるようになる。</p> <p>3) 日常生活自立支援事業や虐待防止・対応等社会福祉サービスにおける権利擁護の現状と課題を理解し、事例を挙げて説明、考察できるようになる。</p>	◎	◎	◎	○	○	△	△	○	△	◎	◎
CC3091	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	<p>実践場面を事例として取り上げつつ、ソーシャルワークに関わる基本的なことについて、主に以下の点に着目しながら学ぶ</p> <p>1) ソーシャルワークを展開する上で直面するジレンマ</p> <p>2) ソーシャルワークの価値と倫理</p> <p>3) ソーシャルワークの実践のあり様</p> <p>4) ワーカーとクライアントの関係性</p> <p>5) ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性、それぞれのレベルへの介入</p>	<p>1) ソーシャルワークにおけるジレンマとは何か説明できる</p> <p>2) ソーシャルワークの価値と倫理について説明できる</p> <p>3) 事例からソーシャルワークの実践について説明できる</p> <p>4) ワーカーとクライアントの関係性の捉え方について理解できる</p> <p>5) 事例を踏まえて、ミクロ・メゾ・マクロレベルを一貫して捉えつつ、ソーシャルワークの実践のあり方を説明することができる</p>	◎	◎	◎	△	△	○	△	○	○	○	△
CC3092	社会福祉調査の基礎	<p>ソーシャルワークとは、実践に基づいた専門職であり学問である。そのため、ソーシャルワーカーには学問としてのソーシャルワークの発展を支えるとともに、専門職として自らのソーシャルワーク実践を適切に評価する能力が必要とされている。場当たりの実践や経験値のみに頼った実践から脱却し、客観的方法によってソーシャルワーク実践を評価し、知識を蓄積していくことが求められており、それを可能とするのが社会福祉調査である。</p> <p>そこで本科目では、社会福祉調査に関する知識と技術の習得を目的とする。具体的には、社会福祉調査の意義と目的、倫理と個人情報保護、具体的な調査方法や分析手法などについて学習する。また、社会福祉調査の知識と技術をソーシャルワーク実践の評価に適用させる方法についても事例などを用いて実践的に学んでいく。</p>	<p>1) 社会福祉調査の意義を近代史に位置付けて述べることができ、今日におけるその目的を説明できる。</p> <p>2) 社会福祉実践における社会福祉調査、評価法の意義と役割について説明することができる。</p> <p>3) 統計法の目的と主な内容について解説することができる。</p> <p>4) 社会福祉調査における倫理と個人情報保護に関する基本的な考え方について説明することができる。</p> <p>5) 社会福祉調査及び評価法の基本的プロセス（データ分析法も含む）について説明することができる。</p> <p>6) 目的に応じた社会福祉調査を企画・設計することができる。</p>	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	○
CC3093	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	<p>ソーシャルワークの専門性と基盤や倫理の理解の上に、ソーシャルワークの視点（人と環境の相互作用への視点）、生活モデル、アプローチについて、面接授業や印刷教材による授業で学ぶ。</p> <p>また、ソーシャルワークのプロセスや専門性についても同様に学ぶ。</p>	<p>1) 人と環境の相互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて説明できる。</p> <p>2) ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチについて説明できる。</p> <p>3) ソーシャルワークのプロセスと活用する知識や技術、価値について説明できる。</p>	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○
CC3094	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	<p>面接授業や印刷教材を用いた授業において、総合的かつ包括的支援の意味を理解し、そこで用いられるグループワークやコミュニティワークといった方法について、概念とプロセスを学ぶ。</p> <p>また、ソーシャルワークにおけるケアマネジメントやスーパービジョン、コンサルテーションといった関連技術についても、その概念を学ぶ。</p>	<p>1) ソーシャルワークが総合的かつ包括的な相談援助であることを説明することができる。</p> <p>2) 集団やコミュニティを対象として支援の概念とその展開について説明ができる。</p> <p>3) ソーシャルワークにおけるスーパービジョンとコンサルテーションについて理解し説明できる。</p>	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	
CC3095	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	<p>スクーリングや印刷教材による授業で、多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法について、ここでは関係形成の基礎となるコミュニケーション、面接技法を学ぶ。次いでアウトリーチやネットワーク形成に焦点を当てその方法を学ぶ。具体的には、</p> <p>1) 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。</p> <p>2) 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。</p>	<p>1) 多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法について説明できる。</p> <p>2) 支援を必要とする人との援助関係の形成や、ニーズ把握の知識と技術について説明できる。</p> <p>3) 事例研究を通じて、ソーシャルワーカーとしての社会福祉士の専門職として必要な価値や技術、知識について説明できる。</p>	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	
CC3096	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	<p>スクーリングや印刷教材による授業で、多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法について、ここでは社会資源の活用、調整、開発の方法と、ネットワークの形成及びコーディネーションの方法等について学ぶ。具体的には、</p> <p>1) 多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。</p> <p>2) 地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。</p>	<p>1) 多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法を説明できる。</p> <p>2) 地域における社会資源の開発やネットワークの形成、コーディネーションやソーシャルアクションについてその方法について具体的に説明できる。</p> <p>3) 個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を具体的に展開できる。</p>	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	
CC3097	地域福祉と包括的支援体制A	<p>これまでの歴史的経緯を踏まえ、地域共生社会を含む福祉コミュニティの構築に向けた地域住民等や地方公共団体並びに関係機関の役割を理解し、人々の繋がりや地域社会の機能力が脆弱化してきていると指摘されている今日、地域福祉実践の理論と実際を理解し、具体的に実践するための手法を学びます。</p> <p>具体的には、東北を中心とした各地域における様々な実践事例や、エピソードなどを交えて、地域福祉の基本的な考え方と、その考え方が具体的な実践でどのように活かされているのか講義を通じて紹介します。</p> <p>これらの事例等を通じて、地域福祉の実践によってどのような効果や成果が望まれているのか等に関し、地域住民が取り組む意義と、地域福祉実践が絶えず動的に展開される必要性について理解を深めます。</p>	<p>1) 地域福祉は、地域住民等が推進主体であることを説明できる。</p> <p>2) 地域福祉は、福祉コミュニティ実現に向けた実践であることを説明できる。</p> <p>3) 地域福祉実践のために、包括的な支援体制を含む人的社会的資源のシステム形成の必要性を説明できる。</p>	○	◎	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	
CC3098	地域福祉と包括的支援体制B	<p>これまでの歴史的経緯を踏まえ、地域共生社会を含む福祉コミュニティの構築に向けた地域住民等や地方公共団体並びに関係機関の役割を理解し、人々の繋がりや地域社会の機能力が脆弱化してきていると指摘されている今日、地域福祉実践の理論と実際を理解し、具体的に実践するための手法を学びます。</p> <p>具体的には、東北を中心とした各地域における様々な実践事例や、エピソードなどを交えて、地域福祉の基本的な考え方と、その考え方が具体的な実践でどのように活かされているのか講義を通じて紹介します。</p> <p>これらの事例等を通じて、地域福祉の実践によってどのような効果や成果が望まれているのか等に関し、地域住民が取り組む意義と、地域福祉実践が絶えず動的に展開される必要性について理解を深めます。</p>	<p>1) 地域福祉は、地域住民等が推進主体であることを説明できる。</p> <p>2) 地域福祉は、福祉コミュニティ実現に向けた実践であることを説明できる。</p> <p>3) 地域福祉実践のために、包括的な支援体制を含む人的社会的資源のシステム形成の必要性を説明できる。</p>	○	◎	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎	
CD2170	高齢者福祉	<p>本科目は、高齢期の特徴、超高齢社会の諸課題について理解した上で、高齢者とその家族に対する諸制度と支援の方法について体系的に理解することを目的とします。全体的な学習の流れとしては、高齢者福祉の理念および目的について学習し、あわせて現行の高齢者福祉施策の体系の全般的理解を図り、それらを基礎知識として活用しながら、高齢者とその家族に対する支援方法についても学んでいきます。</p> <p>スクーリングでは、高齢者（若い）の定義と特性、少子高齢社会と高齢者を取り巻く諸問題、高齢者保健福祉の発展過程、介護保険制度の概要とサービス体系、高齢者と家族に対する支援体制と方法について重要なポイントを中心に講義します。スクーリングの前と後に教科書を読むことでさらに学びを深めていきます。レポート学習ではスクーリングと教科書で得た知識の活用と定着を目指します。</p>	<p>1) 高齢者（若い）の定義と特性について理解し説明できる。</p> <p>2) 少子高齢社会の現状と高齢者を取り巻く諸問題について理解し説明できる。</p> <p>3) 高齢者に対する諸制度について理解し説明できる。</p> <p>4) 介護保険制度とサービスの体系について理解し説明できる。</p> <p>5) 高齢者を支援する組織と専門職の役割を理解し説明できる。</p> <p>6) 高齢者支援の方法について理解し説明できる。</p> <p>7) 高齢者福祉に関わる諸問題に関心をもち、今後の課題について考えることができる。</p>	◎	○	◎	△	△	○	△	◎	◎	◎	△

CD2171	障害者福祉	<p>社会における諸課題を理解し課題解決に取り組むために、障害のある人を取り巻く現状を理解するとともに、関係する法律や制度について理解し考察する力を身につけます。そのため、障害者福祉に関する基本から実際（実情）まで幅広く学習してください。</p> <p>【スクーリングで学ぶ内容】</p> <p>障害者福祉の基本について制度、歴史、支援の在り方等について広く学習します。スクーリングでは、随時、振り返りを行いながら専門用語について「言葉と言葉の仕組み」について学習していきます。</p> <p>【教科書・レポート学習で学ぶ内容】</p> <p>障害及び各種障害の定義、人的・物的・社会的環境からの支援内容等について幅広く学習します。レポート学習の際には、一つ一つの専門用語を整理しながら知識の習得を図ります。</p>	<p>1) 障害者福祉の理念と障害の概念について説明することができる。</p> <p>2) 障害当事者を取り巻く現状やこれまでの歴史を踏まえ、当事者が抱える問題への認識を深めつつそれを説明することができる。</p> <p>3) 障害者福祉制度、関連施策への理解を深め、当事者が抱える問題の軽減・解決に向けた取り組みについて説明することができる。</p> <p>4) 障害者福祉に関する基本用語（障害とは、差別、偏見、自立、自立等）について自身の言葉で説明することができる。</p>	◎	◎	○	○	○	○													
CD2172	児童・家庭福祉	<p>本科目では、人権保護や権利擁護といった権利保障の捉え方をふまえて、児童家庭福祉施策の史的展開を学習していきます。具体的には、貧困家庭、要保護児童、ひとり親家庭、障害児、児童虐待対策、DV対策、社会的養護など様々な状況にある児童や家庭について支援について、法律やサービスの枠組みを体系的に学びます。</p> <p>【スクーリングで学ぶ内容】</p> <p>児童施策や児童の人権・権利保障の変遷をふまえ、多岐にわたる児童福祉の法制度の体系を学びます。また児童や家庭への支援についての実際を学びます。</p> <p>【教科書・レポート学習で学ぶ内容】</p> <p>教科書により児童家庭福祉施策について法律的、制度的枠組みを体系的に学びます。</p> <p>レポート作成については、児童虐待対応などの重要施策についてはインターネットを活用して近年の現状を把握し、教科書や他の教科書、資料等を活用して、課題に対する解答を論述する。</p>	<p>1) 児童福祉や権利保障の歴史をふまえ、我が国の児童家庭福祉の全体像を理解しその内容を説明することができる。</p> <p>2) 多岐にわたる児童に関する法律や制度を把握し、社会福祉援助技術につながる知識を体系的に説明することができる。</p> <p>3) 児童や保護者への支援の実際を理解しながら、児童福祉分野の専門職、専門機関の役割や機能を説明することができる。</p>	◎	◎	◎	○	○	△	○	◎	○	○	○								
CF3174	刑事司法と福祉	<p>「刑事司法と福祉」の目的は、高齢者の犯罪や精神障害者の犯罪、非行少年などの諸問題に対して刑事司法機関だけでは対応できないため、福祉関係機関と刑事司法機関が密に連携しながら社会全体で一体となって再犯を防止し社会復帰させることです。犯罪者・非行少年の改善更生を図るために、「再犯防止」「社会復帰」に必要な担い手として社会福祉士や精神保健福祉士が期待されています。</p> <p>講義では犯罪者、非行少年の事例を挙げて、刑事司法・少年司法分野で活躍する組織、団体及び専門職、刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携のあり方、更生保護の概要・担い手、保護観察制度、医療観察制度、犯罪被害者等支援を中心に学んでいきます。</p> <p>刑事司法全体を概観し、相談援助活動に必要な更生保護制度について学ぶことにより、論理的・創造的な法的思考能力を図り、修得した知の経験を社会や他者のために還元できる意欲と能力の向上を図ることを目的とします。</p>	<p>1) 刑事司法と福祉の概要について説明することができる。</p> <p>2) 更生保護制度の担い手について説明することができる。</p> <p>3) 医療観察制度の制度趣旨と問題点について説明することができる。</p> <p>4) 保護観察制度の制度趣旨と問題点について説明することができる。</p>	◎	◎	◎	○	○	△	○	◎	◎	◎									
CN3251	ソーシャルワーク演習(社会福祉士)	<p>この科目では、ソーシャルワーク専門職に求められる相談援助に係る基本的知識と技術について、実践的に習得することを目的としています。単なる理論的な学習では、支援を必要としている人たちが抱える課題の解決やニーズの充足を満たすことはできません。理論を実践に役立てるためには、ソーシャルワークについて事例検討や疑似体験などを通して専門的に学習することが重要です。</p> <p>本演習では、ソーシャルワークにおける理論や専門知識を踏まえた上で、特に、倫理観、価値観、援助の原理、展開過程などの基本的なソーシャルワーク実践の知識と技術を中心に、ロールプレイなどの疑似体験、グループ討議などアクティブラーニングを通して、統合的、主体的に学習することを目的としています。</p>	<p>1) 視点、モデル、アプローチなどソーシャルワークの枠組みが説明できる</p> <p>2) 社会福祉専門職としての「自己」について、自己覚知を通して客観的な視点から説明できる</p> <p>3) 社会福祉の倫理、価値規範について説明できる</p> <p>4) 言語的、非言語的コミュニケーションの基礎を身につけ、基本的な面接技術を学習の場で実践できる</p> <p>5) 相談援助の過程について事例を通して具体的にイメージすることができ、説明できる</p> <p>6) 相談援助の基盤と専門性について説明できる</p>	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	◎	◎	◎									
CW3283	ソーシャルワーク演習(精神保健福祉士)	<p>個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により、ソーシャルワークの価値規範と倫理、ソーシャルワークに必要なコミュニケーション能力、ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術の基礎的能力を習得します。情報の収集・整理・伝達の技術、地域福祉の基盤整備と開発についても、事例を通して実践的に習得します。</p>	<p>1) ソーシャルワークの知識と技術を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を習得し、それらについて説明できる。</p> <p>2) ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解し、それらについて説明できる。</p> <p>3) 自己覚知について説明できる。</p> <p>4) ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を習得し、それらについて説明できる。</p> <p>5) 基本的な面接技術について説明できる。</p> <p>6) ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解し、それらについて説明できる。</p> <p>7) ソーシャルワークの記録について説明できる。</p> <p>8) グループダイナミクスの活用について説明できる。</p> <p>9) 効果的なプレゼンテーション技術について説明できる。</p> <p>10) 情報の収集・整理・伝達の技術について説明できる。</p> <p>11) 地域住民に対するアウトリーチとニーズの把握方法を説明できる。</p> <p>12) 地域アセスメント並びに地域福祉計画の策定について説明できる。</p> <p>13) ネットワーキングの方法や必要性について説明できる。</p> <p>14) 必要な社会資源の活用・調整・開発について説明できる。</p> <p>15) サービスの評価について説明できる。</p>	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎								
CQ3180	現代の精神保健の課題と支援 I	<p>心身の健康の維持増進は社会全体で取り組むべき重要な課題となっており、社会からソーシャルワーカーに期待される役割や果たすべき責任はますます大きくなっています。</p> <p>精神保健の概要、現代の精神保健分野の動向と基本的考え方、家族に関連する精神保健の課題と支援、精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ、精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ、諸外国の精神保健活動の現状および対策について理解することを目的とします。</p>	<p>1) 精神保健の概要について説明できる。</p> <p>2) 現代の精神保健分野の動向と基本的考え方について説明できる。</p> <p>3) 家族に関連する精神保健の課題と支援について説明できる。</p> <p>4) 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチについて説明できる。</p> <p>5) 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチについて説明できる。</p> <p>6) 諸外国の精神保健活動の現状および対策について説明できる。</p>	◎	◎	◎														◎		
CQ3181	現代の精神保健の課題と支援 II	<p>心身の健康の維持増進は社会全体で取り組むべき重要な課題となっており、社会からソーシャルワーカーに期待される役割や果たすべき責任はますます大きくなっています。</p> <p>精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する発生予防と対策、地域精神保健に関する偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携を学びます。その学びを通じて、現代日本における精神保健の課題と支援について理解することを目的とします。</p>	<p>1) 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチについて説明できる。</p> <p>2) 精神保健に関する発生予防と対策について説明できる。</p> <p>3) 地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について説明できる。</p> <p>4) 精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携について説明できる。</p>	◎	◎	◎														◎		
CR3182	精神保健福祉の原理 I	<p>精神保健福祉の原理 I では、「障害」や「障害のある人」についての捉え方について言及したうえで、そこから、心の病がある人の疾患や障害、生活のしづらさについての学びを深めていきます。</p> <p>我が国における障害者福祉の史的変遷を、精神障害者のそれを意識しながら学び、精神疾患がある人や精神障害がある人がどのような社会的立場に置かれてきたのかを知ることで、精神疾患や精神障害についての学びを深めていきます。</p> <p>また、イタリアやアメリカを中心に精神保健福祉先進国と呼ばれる諸外国との比較検討を行うことで、より精神疾患や精神障害についての知見を深めることを狙いに講義を進めます。</p>	<p>1) 障害の捉え方について自らの言葉で述べるることができる。</p> <p>2) 障害の捉え方について説明できる。</p> <p>3) 我が国の精神障害を中心とした障害の制度やそれに対する意識の変遷を説明できる。</p> <p>4) 精神保健福祉先進国と我が国の精神保健福祉についての取り組みの違いを自身の言葉で解説できる。</p>	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	○	○	○	○								

CR3183	精神保健福祉の原理Ⅱ	精神保健福祉の原理Ⅱでは、精神障害者の疾患や障害を起因とする生活のしづらさや生活特性を理解したうえで、精神保健福祉士が支援する上での責務や倫理、支援のターゲットについて吟味を深めます。 また、精神科医療における他職種連携や地域連携にも触れ、精神保健福祉士の職責や具体的なアプローチの方法について考察を深めていきます。	1) 精神障害者の生活のしづらさを理解し説明できる。 2) 精神障害者の生活特性の状況や生活課題を理解し説明できる。 3) 精神保健福祉士の職責や倫理観について解説できる。 4) 精神保健福祉士が提供する支援について説明できる。 5) 精神保健福祉領域における医療連携や地域連携について理解し説明できる。 6) 精神保健福祉士のターゲットへ提供するアプローチについて自身の言葉で説明できる。	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	△
CT3186	精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーションの概念と構成およびそのプロセスについて学ぶことで、精神障害者の地域移行・地域定着支援、すなわち精神障害のある人々がふつふの市民として、地域社会の中であたりまえに暮らしていくことができるようになるために必要な活動としての精神障害リハビリテーションの実際、ならびに精神障害リハビリテーションチームの一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。	1) リハビリテーション概念を理解し、精神障害リハビリテーションについて述べるができる。 2) 脱施設化をキーワードに精神障害リハビリテーションの歴史について、諸外国とわが国の差異性を説明できる。 3) ICF (国際生活機能分類) に基づく障害概念を説明できる。 4) チームアプローチの必要性・方法について理解し、そのなかでの精神保健福祉士の役割を説明できる。	○	○	◎	○	○	△	△	◎	◎	○	○	○	○
CT3187	精神保健福祉制度論	「精神保健福祉法と社会保障制度」「更生保護制度と医療観察制度」を中心に学びます。特に、制度として精神障害者の支援に関連する制度、更生保護制度における関係機関や団体との連携、医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割について、現状を踏まえて理解することを目標とします。	1) 精神保健福祉の制度概要について説明することができる。 2) 精神保健福祉の視点から、医療観察制度の制度趣旨と問題点について説明することができる。 3) 精神保健福祉法の各入院制度の活用法を説明できる。 4) 障害者の人権について理解して説明することができる。	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎